

# すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成25年12月16日発行  
発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

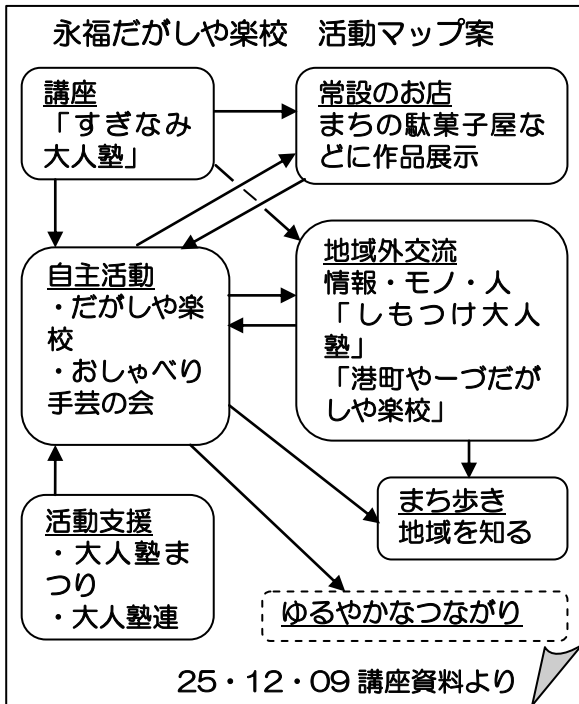
VOL.13

永福  
だがしや楽校を開こう!

永福エリアで「だがしや楽校」を開く準備をしよう

12月9日  
月曜コース

話し合い&作り合い



## ◆なにげないことからの波及効果

第3回目は、12月14日に開催予定の「だがしや楽校」の準備がメイン。まずは前回出てきたアイデアと絡めて近況報告。

その中で興味深かったのは、シャボン玉をしたいと話していた受講生の栗原さんの話。休日に旅行で行った熱海の海岸で偶然シャボン玉のボランティア活動に出会ったそう(右写真は栗原さん作の記録)。そこで、手作りのシャボン玉・キットの作り方を学んできたというのだ。

講座をきっかけにして、講座時間を超えた思わぬ波及効果が生まれた。これこそ、だがしや楽校の持ち味だ。



こんな話をしながら、まとまった「だがしや楽校」(詳細左下)。会場が永福町駅屋上であったり、他地域(栃木・山形)からの出店があったりと、より“地域”とは何かを意識するきっかけとなりそう。松田さん

## ◆手作りしながら、おしゃべりも

後半は、宣伝や飾り付けを作ることに。「手描きでチラシのぼりを描くなんて初めて～」、「学園祭を思い出すね」という声が変わりながら、いくつものチラシが出来上がった(左写真)。あとは当日晴れるのみ!(記事:坂本)



← 味わいのある手描きのチラシのぼり

## だがしや楽校inふくにわ

【日時】12月14日(土) 午前10時半  
～午後0時半

【会場】京王リトナード屋上庭園「ふくにわ」

【出店内容】すぎなみ昔話紙芝居一座“すかい”  
／布の魚釣り／シャボン玉／ストロー笛づくり  
／下野市名産・手芸品(栃木・しもつけ大人塾)  
／モンゴルテント・消しゴムハンコづくり(山形・公益のふるさと創り鶴岡)／アンケートなど

## コラム～コトバを語る

このコラムでは、講座に関連するキーワードについて経験や思い出、自分なりの定義を、受講生自身の言葉で語ってまいります。第2回目は、田村さん。キーワードは、【大人】

子どもの頃、「こんな大人になりたい、あんな大人にはなりたくない」とか考えていました。あれからウン十年。見かけは見事な大人!?どころか、目尻には人生の年輪を刻むような大人!?になったけれど…。中身といえば…あの頃とどこが変わったのだろうか?と考える今日この頃です。

# まちなかアート発見！

～自分の言葉でアートを語る  
自分の足でアートを探す～



## 第4回 in 工芸室

### 捨てるものからはじまる「ツナガルシクミ」

▼今回のツナガルシクミ研究部は、場所を移して工芸室での講座！前回の感想について日沼さんと坂田さんからお話をいただいたあと、本日のメイン「本づくり」へ。



#### ● 捨てるものを観察・思いを馳せる時間・共有する時間

▼ 本の材料は「今日捨てようと思っていたもの」。捨てようと思っていたものにもさまざまなストーリーが想像される。どこでつくられたんだろう？ どういう思いでこの形にしたんだろう？ どんな人たちが関わってきたんだろう？ …観察・想像してみると、いろいろな側面が見えてくる、いろいろなことに思いが及んでいく。白紙にあらわされたストーリーは、絵だったり、文章だったり、図だったり…人それぞれ。発表では、持ってきた人の思い、歴史、趣味、特技、話術(?)も垣間見える発表となった。

#### ● ちょきちょき・ぺたぺた・ぬりぬり・かきかき etc…

▼ それぞれのストーリーを発表したあとは、いよいよ道具を使って本づくりに突入！捨てられる運命にあったものたちに新しいのちが吹きこまれる瞬間だ。ストーリーをふくらませたり、違うストーリーを取り込んでみたり、違うものをモチーフにしたり…思い思いのものをつくろうとみんな集中して作業をしていた。



#### ● できあがった「本」の発表！



##### 《それぞれ捨てるもの一例》

ペットボトル・牛乳パック・入浴剤の空き瓶・折り紙の台紙・卵パック・給与明細が入っていた封筒・ゴマの入っていた袋・杉並を旅した紙の切れ端・コーヒーの袋・プレゼントの外箱・ラップ・アイスの箱・デパートの袋 などなど

▼20分という短い作業時間ではあったが、出来上がった作品は力作ぞろい。発表の仕方は千差万別(右下写真)。物語調の発表では歓声があがった。「思いがけない工芸の時間だった」「みなさんのアイデアに感嘆」など、捨てられるはずだったものが命を吹き込まれ、そこに物語が紡がれることによって笑いや興味や感動を呼び起こす…。そんな本づくりの過程はまさに「ツナガルシクミ」であった。(文章:瀬山)



#### ～「ツナガルシクミ」文庫のご紹介 その1～

みなさま持参の推薦理由カードににじみでる本の魅力、ぜひご覧ください

- ・『現代語訳舞姫』(森鷗外・井上靖) ・『三屋清左衛門残日録』(藤沢周平)
- ・『カシオペアの丘で』(重松清) ・『弁当の日がやってきた』(竹下和夫)
- ・『写真と図で見る:ロープとひもの結び方』 ・『ぞうのエルマー』(デイビット・マッキー)
- ・『今やる人になる 40の習慣』(林修) ・『三匹のおっさん』(有川浩) ・『優しい子よ』(大崎善生)



◆すぎなみ大人"熟"してる？の発行にあたって◆

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。